

令和 6 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立阿倍野小学校

令和 7 年 3 月

大阪市立阿倍野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

<現状>

本校児童の令和5年度大阪市小学校学力経年調査児童質問紙調査において、自己肯定感に関する「自分には良いところがあると思います」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、79.7%であり、大阪市平均より1.2ポイント上回っている。しかし最も肯定的に回答する児童の割合をみると本校児童の割合は、42.4%であり、大阪市平均より2.3ポイント下回っている。

また、いじめに関する「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合は95.2%であり、大阪市平均より0.3ポイント上回っている。最も肯定的に回答する児童の割合は82.3%である。大阪市平均より2.7ポイント上回っている。

<課題>

自己肯定感をより一層高め、自分で様々なことに挑戦したり、人のために何かできることはないか考え方組んだりできるようにしていく。また、その取り組みを通していじめはどんな理由があってもいけないことであるという強い意識を高めていく。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

<現状>

令和5年度大阪市小学校学力経年調査の結果において4年生の算数、理科において大阪市平均正答率を少し下回っているが、他の教科においては、大阪市平均正答率を上回っており、学ぶ力については、概ね備わっているといえる。児童質問紙調査について、考えを深めることに関する「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」では最も肯定的に回答する児童の割合は43%であり、大阪市平均を上回っているが、課題であると考える。

運動に関する「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」に対して最も肯定的に回答の割合は65.9%であり大阪市平均より3ポイント下回っている。

<課題>

主体的・対話的で深い学びとなるよう授業を工夫し、既習内容を生かし、自ら考え、友だちとの意見交流を通して、さらに自分の考えを深めたり広げたりできるようにする。

体力向上においては、楽しく体を動かす機会を設け、子どもたちが運動やスポーツに興味関心をもち、より上手に体を使うにはどうすればよいか考え方組むことができるようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

<現状>

一人一台配備されている学習者端末については、各教科・領域の学習内容によって効果的に活用するようにしている。子どもたちは端末の操作に慣れ、目的に応じて進んで活用する

ことができる。

教職員は一人一人に寄り添い、子どもたちがより成長できるように、いろいろな取り組みを考えたり、教材研究等を行ったりしている。

〈課題〉

今後の社会を見据え、子どもたちが情報機器を日常的に活用し、ICTを活用する能力を向上していく。そしてICTを活用した個に応じた協働的な学びを実現できるようにしていく。

よりよい教育を提供するには教職員の健康も必要不可欠である。働き方改革を推進し、教職員がゆとりをもって、子ども一人一人に寄り添うことができるようとする。

学校での取り組みを学校ホームページ等を活用し発信し、学校・保護者・地域で協力して子どもたちを育てていくことができるようとする。

中期目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、「当てはまらない」と回答する児童の割合を、5%以下にする。
- 令和7年度3学期のQ-Uにおける「学級生活満足群」の割合について、低学年60%以上、高学年70%以上を維持できるようにする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめなどが起こらないよう、子ども同士が認め合い、支え合う仲間づくりに努めている」について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、「大変そう思う」の割合を30%以上にする。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、概ね1.05以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」に対して、「難しいと思わない」「どちらかというと難しいと思わない」に回答する児童の割合を、70%以上にする。
- 令和7年度3学期のQ-Uにおける「学習意欲」得点について、9.5以上を維持する。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、体力合計点が、大阪市平均より上回るようにする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 学習者用端末を活用した授業を高学年で週に3回以上、低学年で週に2回以上実施する。
- 小学校学力経年調査において、4教科の「活用(思考力・判断力・表現力)」について、市平均との比較値を前年度より高める。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる勤務時間に関する【基準2のア:1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない】を満たす教員の割合を90%以上にする。

- 児童アンケート「すすんで読書をしている。」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている。」のそれぞれにおいて、肯定的回答率 70%以上を維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめなどが起こらないよう、子ども同士が認め合い、支え合う仲間づくりに努めている」について、否定的回答率 10%以下を維持できるようにする。
- 令和6年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的回答率 85%以上を維持できるようにする。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。
- 令和6年度3学期のQ-Uにおける「学習意欲」に関する得点について、9.5以上を維持する。
- 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より向上させる。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55%以上にする。
- 小学校学力経年調査において、4教科の「思考力・判断力・表現力」について、市平均との比較値を昨年度より高める。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基

- 準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。
- 児童アンケート「すすんで読書をしている。」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている。」のそれぞれにおいて、肯定的回答率65%以上を維持する。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の各最重要目標における取組内容では16個の取組の中でA評価が6個、B評価が9個C評価が1個であり、達成率は94%となった。唯一、目標を達成できなかった取組は、働き方改革に関する取組である。それぞれの教職員が、子どもたちをよりよく成長させるため、試行錯誤しているためと考える。また、やらなければならないことも増えているため、さらなる工夫が必要である。半面、その他の項目については、達成していることやA評価が多いことからも、教職員の努力の結果だと考える。今後、学校の子どもたちの力をさらに伸ばす努力とともに、効果的、効率的に業務に取り組む必要がある。

大阪市立阿倍野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。○ 令和6年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。○ 令和6年度末の保護者アンケートにおける「学校は、いじめなどが起こらないよう、子ども同士が認め合い、支え合う仲間づくりに努めている」について、否定的回答率10%以下を維持できるようにする。○ 令和6年度末の保護者アンケートにおける「学校は、子どもの安全確保に努めている」について、肯定的回答率90%以上を維持できるようにする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童理解にもとづく学級・学年づくりをすすめるとともに、校内生活指導体制・問題対応体制を整え、「いじめ」を許さない学校をつくる。 <p>学期毎（1年生は2・3学期）のQ-Uと1・3学期の生活指導研修会（共通理解の場）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援を要する児童についての現状や支援方法についての情報共有 問題事象への組織的な対応 保護者との信頼関係の構築 問題事例についての共通理解 	B (いじめへの対応)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないとだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 保護者アンケート「学校は、いじめなどが起こらないよう、子ども同士が認め合い、支え合う仲間づくりに努めている。」について、否定的回答率10%以下を維持する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校、地域、保護者の協働による安全な学校づくりをすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> 登下校の見守り活動についての三者での協力 年6回（学期2回）の通学路点検のための巡視 学校敷地内及び校区内で見つけた「危険な場所」についての情報共有と児童への指導 	A (安全教育の推進)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「学校は、施設設備面で、望ましい学習環境づくりに努めている。」「学校は、子どもの安全確保に努めている。」についての肯定的回答率85%以上を維持する。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異学年交流を通して、思いやりのある、尊重し合える集団づくりをすすめることで、自分の役割や互いのよさに気付かせ、自己有用感を高める。 <ul style="list-style-type: none"> たてわり班での児童集会や児童会行事の計画的な実施 ペア学年での「なかよし集会」の計画的な実施 	A (道徳教育の推進)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート（高）「あべっこ班での活動を通して、自分の役割を果たすことができましたか。」（低）「あべっこ班の仲間と協力して、活動することができますか。」（共通）「あべっこ班での活動を通して、自分の良いところや友だちの良いところを見つけることができましたか。」について肯定的回答率が85%を上回るようにする。 	

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- ・場に応じたあいさつや言葉づかいができるようにする。
 - あいさつのポイント「目を見て・自分から」についての指導
 - 「あいさつ運動」、「あいさつ強調週間」の実施
 - 授業中の発言、職員室への入室時の言葉、来客や校外で会う方たちへのあいさつや話し方 等、機を捉えての指導

(道徳教育の推進)

B

- 指標
- ・児童アンケート「目を見て相手に聞こえる声であいさつをしている。」「場に応じた正しい言葉づかいをするようにしている。」について、「そう思う。」と解答する児童の割合 85%以上を維持する。
 - ・保護者アンケート「学校は、子どもたちが気持ちのよいあいさつができるよう努めている。」について、肯定的回答率が 85%を上回るようにする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）

- ① 生活指導部会や生活指導研修会、職員朝会、職員会議後の情報交換など、問題事例や支援を要する児童の現状について教職員全体で共通理解を図ることができた。特別な支援を要する児童については学年で常に情報共有を行い、児童への指導や支援の方法について話し合うことができた。心の天気、QU やいじめアンケートの結果等をふまえ、児童の人間関係の把握に努め、問題事象があればすぐに対応してきた。保護者とも連絡をとり合い、信頼関係の構築に努めた。また、「いじめについて考える日」に学年で取り組みを行ったり、日々学級で指導したりする中で、いじめは決して許されないという意識が育ってきている。
- ② 教職員による日々の看護当番や通学路点検や地域の見守り隊の方による登下校の見守り活動、放課後の運動場の見守り活動等で子どもへの安全を確保することができた。また、月1回の安全点検を計画的に行った。今年度は、校内でたくさんの工事があったが、けがやトラブルにつながることはなかった。
- ③ たてわり班での児童集会やあべっこカーニバル・全校遠足、ペア学年での「なかよし集会」の実施により、異学年交流を深められ、互いを尊重する気持ちが育まれ、低学年に対する思いやりや高学年として役割意識が育まれた。友だちと協力して活動する楽しさ、自分の責任を果たすことの大切さに気付かせることができた。
- ④ 「あいさつ運動」や「あいさつ週間」の実施により、「目を見て・相手に聞こえる声で・自分から」あいさつをすることができている。朝の正門でのあいさつだけでなく、校内でもあいさつができる児童が増えてきている。また、休み時間に西運動場へ移動する際には、安全に休み時間を過ごせるように見守っている管理作業員へお礼を言うことができている。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答しなかった児童が昨年度の 15%から 18%と増えていることから、今後も道徳の学習などでいじめに対する学習を行ったり、日々の指導の中で、児童の人間関係の把握に注力したりする必要がある。また、引き続き、生活指導部会や職員会議後の情報交換などで、教職員全体で情報共有を行い、いじめ事象があった場合は速やかにいじめ対策

委員会を設け対応していく。

- ② 登下校時に広がって歩いたり、よそ見をしながら走ったり、通学路を守っていなかつたりする児童がいるので、これからも教職員・見守り隊の方と連携しながら安全に登下校できるように指導していく。また、西運動場への横断の仕方や時間を守って遊ぶことについても指導する。
- ③ 互いの良さに気付くことができるような活動を工夫し、1つ1つの取り組みがより充実したものとなるように計画していく。また、児童集会や児童会行事以外でも学習活動と関連させて異学年交流の場を設定し、自己有用感を高められるようにしていく。
- ④ 正門だけでなく、教室や廊下、階段などでもあいさつができるよう引き続き指導していく。指導の際も、道徳や学級活動を通して、あいさつすることの意味や大切さ、必要さなどを「目を見て・自分から・相手に聞こえる声で」というポイントを軸に考えられるようにしていく。また、あいさつ運動も場所を工夫して行っていく。そして、大人も児童にだけでなく、来客や校外で会う方たちへあいさつする姿勢を見せ、児童にもあいさつする習慣を身に着けられるようにしていく。

大阪市立阿倍野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。 ○ 令和6年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。 ○ 令和6年度3学期のQ-Uにおける「学習意欲」に関する得点について、9.5以上を維持する。 ○ 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より向上させる。 	

	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	
<ul style="list-style-type: none"> ・言語能力の育成を意識した取組を工夫し、実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「話すこと」「書くこと」を重視した授業展開の工夫 ○ 様々な活動における、「自分の言葉で発表する場」の設定 (言語活動・理数教育の充実<思考力・判断力・表現力等の育成>) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか。」について、「どちらかといえばそう思わない」「思わない」と回答する児童の割合を昨年度より増加させる。 	B
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容についての理解を確かにための工夫を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 朝学習とチャレンジタイムの計画的な実施(週2回以上) ○ 家庭学習の工夫と学習習慣の確立(時間のめやす: 10分×学年 + αと学び方の例示) (言語活動・理数教育の充実<思考力・判断力・表現力等の育成>) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ・保護者アンケート「学校は、子どもが学習習慣や学習規律を身に付けられるように努めている。」について、肯定的回答率90%以上にする。 	B
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】	
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の学習の状況に応じた指導の工夫を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 教材の工夫 ○ 課題の工夫(補充的なもの・発展的なもの) (「主体的・対話的で深い学び」の推進<各学校の実態に応じた個別支援の充実>) 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校経年学力調査質問紙において、「国語の授業の内容はよくわかりますか」「算数の授業の内容はよくわかりますか」について、肯定的回答率の平均85%以上を維持する。 ・授業アンケート5項目「興味・関心・意欲の向上」「学習内容の習得」「個の状況に応じた支援」「望ましい学習集団の育成」「児童への適切な評価」について、肯定的回答率の平均を81%以上にする。 	A

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

- ・英語教育を推進する。
 - 「英語タイム」の計画的な実施
 - 外国語による言語活動を通して子どもの思考力・表現力・判断力を高める実践の工夫をする。

(英語教育の強化)

- 指標
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。
 - ・小学校学力経年調査において英語科の「活用（思考力・判断力・表現力）」について、市平均との比較値より高める。

B

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・運動する機会を増やすとともに、体力向上についての児童の意識を高める工夫をする。
 - 記録表の作成と活用
 - 運動週間等の設定と実施についての工夫
 - 運動する場の工夫や用具等の充実
 - 「みんな遊び」など、学級での遊びの工夫

(体力・運動能力向上のための取組の推進)

- 指標
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上を維持する。
 - ・保護者アンケート「学校は、子どもたちの体力向上に努めている。」について、肯定的回数率85%以上を維持する。

B

取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・けがの予防について、児童・保護者の意識を高め、実践できるように工夫する。
 - 教室での指導、朝会での指導 等、機をとらえた指導
 - 「保健だより」による周知
 - 保健強調週間における「元気アップカード」の活用

(健康教育・食育の推進)

- 指標
- ・児童アンケート「けがをしないために、ルールを守って過ごしていますか」について、肯定的回数率を80%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）

- ① 各教科の授業において、ペアやグループでの「話し合い活動」や自分の考えを「書く活動」を多く取り入れてきた。自分の考えの根拠を明確にし、理由とともに話すことができるようにしてきた。グループでの話し合いの際には、「司会カード」を使って話し合いを進めたり、話し合いのテーマに沿った話型を用意したりして、自分の意見に自信がない児童でも発言しやすいように場の工夫をしてきた。機会を重ねるごとに話し合いの仕方がスムーズになり、自分から周りの児童に考えを伝えようとする児童が増えてきた。

- ② 朝学習やチャレンジタイムを活用し、デジタルドリルやプリント等を活用し、漢字や計算など基礎的・基本的な学習内容の定着に取り組んできた。宿題では、自主学習を取り入れるなどして、自主的な学習ができるように取り組んでいる。学習内容の理解に時間がかかる児童については、休み時間や放課後においても個別指導を行っている。
- ③ 教材を工夫し、動画や写真等により視覚支援を行ったり、机間指導のときの適切なアドバイスをしたりすることで、児童が学習内容を理解できるよう努めている。学習内容の定着が不十分な児童には、授業時間だけでなく休み時間や放課後の時間にも個別に支援している。その際は、個の学習状況に応じたプリントやデジタルドリルを活用している。
- ④ 週に2回程度、チャレンジタイムの時間に英語タイムを実施している。DREAMのストーリーやソングを中心に外国語の表現に慣れ親しんでいる。2年生では、外部講師による「英語レッスン」を年3回行い、外国語の音声に親しむ機会を低学年のうちから設けている。また、週2回のチャレンジタイムでは、外国語活動及び外国語科に向けた読むこと・書くこと等の素地を養っている。そういう取り組みの中でインプットだけで終わるのではなく、アウトプットを重視してきた。
- ⑤ 長縄週間、かけ足週間、縄跳び週間を設定し、「体力アップカード」等を活用しながら意欲的に取り組むことができた。「みんな遊び」は各学級で週1回以上設定し、みんなが遊びたい遊びを話し合い、ルールを工夫して実施できるようになってきた。「みんな遊び」の日を楽しみにしている児童も増えている。
- ⑥ 体育科での保健学習や教室での指導に加えて、「あべっこ元気アップ週間」や保健指導、ほけんだより、保健室の壁面掲示などを通してけがや病気の予防についての意識を高めるように工夫した。また委員会活動で校内の危険な場所や危険な行動について注意喚起する動画や掲示を作成した。保健室より児童のけがや病気、来室状況の様子が教職員に定期的に伝えられることで児童への声かけの参考になり、けがや病気の予防につながった。しかしこれまで廊下や階段を走っている児童がいるので、今後も継続指導を行っていく必要がある。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① 「話すこと」が苦手な児童については、自分の意見をあらかじめ書いておく、他の児童の意見を参考にする、指導者が個別指導を行うなどの手立てを実施する。「書くこと」が苦手な児童については、文例を提示する、個別指導を行うなどの手立てを実施する。自分の言葉で発表する場の設定については、今後も各教科で機会を設け、意見を伝え合うだけでなく、意見の違いに着目して質問し内容を深められるようにする。
- ② 朝学習やチャレンジタイムについては、今後も内容の工夫を継続して行う。家庭学習については、引き続き家庭への啓発を行い、協力を求めていく。
- ③ 学習内容の定着が不十分な児童には、休み時間や放課後の支援を継続していく。それでも課題の残る児童については、保護者と連携を図りながら支援の仕方を考えていく。補充的な学習だけでなく、発展的な学習に取り組めるように、今後も教材や課題の工夫を引き継ぎ行っていく。
- ④ これからも「英語タイム」を継続して取り組んでいくとともに、英語カードや英語の歌やチャンツなどの活用をしていく。また、思考力・判断力・表現力を高めるために、C-NETとの交流や友だち同士で会話する機会を必ず取り入れるようにしていく。

- ⑤ 今後も体育科の学習だけではなく、運動週間やみんな遊びなどを継続的に行うことで、体力・運動能力の向上に努める。また、運動場や体育館を定期的に点検し、整理したり修理したりすることで、児童が安全に運動できるようにする。
- ⑥ 指標を達成することはできたが、子どもたちの様子を見ていると、廊下・階段の歩行や運動場への移動、運動場や教室での過ごし方については注意が不十分であり、まだまだ病院に行くけがも発生している。今後も継続して指導していくとともに、保健指導や委員会活動・掲示板などで、けがの事例や教室内での過ごし方、実験・実習中の安全面について注意を促し、けがの予防につなげていく。

大阪市立阿倍野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。○ 小学校学力経年調査において、4教科の「思考力・判断力・表現力」について、市平均との比較値を昨年度より高める。○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。○ 児童アンケート「すすんで読書をしている。」、保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている。」のそれぞれにおいて、肯定的回答率65%以上を維持する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育DXデジタルトランスフォーメーションの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等の見方・考え方を生かした「協働的な学び」ができるように授業づくりや思考に合わせたフレキシブルな場づくりをすすめ、思考力・判断力・表現力を高める実践研究に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 研究主題に則った、全教員による年1回以上の校内研究授業の実施 「協働的な学び」を充実させるための課題や場（時間や空間 等）設定についてのポイントの明確化 校内研究授業に向けた「指導案検討会」「授業討議会」の実施 教員のICT活用能力向上をめざす研修の実施 <p style="text-align: right;">(ICTを活用した教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査において、4教科の「思考力・判断力・表現力」について、市平均より高い値を維持する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 6 教育DXデジタルトランスフォーメーションの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、情報活用能力を高める授業実践に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習過程の確立 年1回のICT実践報告会の実施(効果的なICT活用の方法やプログラミング学習等の実践を交流する) メディアリテラシーの育成をめざす取組の推進 キーボード入力等、技能の向上をめざす取組の推進 <p style="text-align: right;">(ICTを活用した教育の推進)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> キーボードを使った文字入力について、各学年の目標入力文字数 (6年:150文字、5年:130文字、4年:110文字/5分間)を達成させる。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゆとりの日」を積極的に設定する等、「学校園における働き方改革推進プラン」を促進する。(働き方改革の推進) 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の読書環境を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> 委員会活動による取組（「読書週間」等）の工夫 図書館内外の掲示の工夫 学級文庫の充実 <p style="text-align: right;">(「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「すすんで読書をしている。」について、肯定的回答率を65%以上にする。 保護者アンケート「学校は、子どもがすすんで読書をするように努めている。」について、肯定的回答率を70%以上にする。 	

取組内容⑤【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・ゲストティーチャーとのふれあいや体験活動を通して、社会に関心をもたせるとともに、人と人のつながりの大切さについて感じ取らせる。
- 地域の方々やゲストティーチャーによる講話やふれあい活動、体験活動の計画的な実施
(教育コミュニティづくりの推進)

A

- 指標
- ・保護者アンケート「学校は、地域の人々や身の回りの自然とふれあい、様々な体験を通して、心豊かな子どもが育つよう努めている。」についての肯定的回答率を80%以上にする。

取組内容⑥【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

- ・学校の取組や児童の様子を、保護者や地域に広報し周知することによって、より良い学校づくりのために、連携を深められるようにする。
- 「学校だより」「学年だより」の充実
- ホームページの工夫

(教育コミュニティづくりの推進)

A

- 指標
- ・保護者アンケート「学校は、説明会や懇談会、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、教育方針や学校の取組を保護者に分かりやすく知らせている。」についての肯定的回答率80%以上を維持する。
 - ・ホームページへの年間アクセス数20,000件以上を維持する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について（進捗状況を具体的に記述し、取組の成果や実施上の課題などを記述）

- ① 研究主題に沿って指導案検討会、研究授業、授業討議会を計画的に進めることができた。また、全教員による公開授業も計画に実施することができた。また、転勤されてきた教員を対象にICT研修を2回計画的に実施し、アプリの基本的な操作法や授業での効果的な活用法を交流する機会も設けた。
- ② 様々な教科で、ICT機器を活用した授業実践を工夫してきた。心の天気を毎朝入力することや、朝学や課題が早く終わった児童はタブレットドリルを活用することを進めてきた。ICT活用を日常的に行っているため、基本的な操作スキルが身についた。キーボード入力に慣れてきており、文字入力速度が速くなっている。
- ③ ゆとりの日を計画的に実施している。ゆとりの日や会議がない日等は、できるだけ早く退勤しようと心掛けているが、行事や児童の対応で難しい場合が多い。留守番電話の開始時刻を早めるなど少しづつ働き方改革を実施しているが、それを上回る仕事量のため、本来力を入れるべき授業力の向上と児童の学力向上のための時間が確保できないのが現状である。新しいことが次から次に導入されるのに対して、今までの仕事を減らすことがないため、達成が難しい。
- ④ 学年の移動書架に、新しい本を置き、学習の関連図書も単元に応じて入れ替えることを心掛けてきた結果、学習後に進んで手に取り、学びを広げようとする児童が多くみられた。図書委員会による「読書週間」では、賞状をもらえることが本を進んで読む意欲につながった。

図書委員会による各学級への紙芝居の読み聞かせや図書開放、「オススメの本紹介」の取り組みで、進んで本を読む児童が多かった。

- ⑤ 区役所による「英語レッスン」・地域の方による「クリスマスパーティー」・「命のわ」の皆さんによる「命の授業」、リーフラス、おはなしぽけっと、阿倍野区役所、阿倍野警察署、住之江特別支援学校、幼稚園保育所などを招いた様々な体験活動を通して、児童はいろいろな方々に見守られ繋がりがあることを実感した。
- ⑥ 「学校だより」や「学年だより」の発行、ホームページの更新を定期的に行うことで、学校での取り組みを保護者や地域に発信してきた。

今後の改善点

【取組内容】について（課題のあった取組ごとに、課題に対する改善点や方策を記述）

- ① 今年度の研究成果や課題を生かし、来年度の研究に生かす。また、「協働的な学び」を充実させるための課題や場の設定については、今後も研究を進めていく。
- ② キーボードチャレンジは継続して行い、文字を打つ技術を高めていき、学習の中でも工夫を取り入れていく。ICT 機器を活用した授業を進めるとともに、メディアリテラシーについても取り組む必要がある。学習内容に応じて行っているが、学年ごとの系統表があれば進めやすい。メディアリテラシーの系統性について検討する必要がある。また、道徳の学習などで情報モラルの指導に努める
- ③ 校時を工夫するなど下校時間を早くし、教員の事務作業の時間を確保する。さらに学校全体での意識づけ、取り組みが必要である。
- ④ 昼休みの図書開放や学年文庫の整理によって今後も進んで読書ができるように、読書環境を整えていく。
- ⑤ 各学年で実施したことを次年度に引き継ぎ、教科の関連やその年ごとの行事の時期を考えて実施できるようにする。
- ⑥ 今年度の保護者アンケートの結果を生かして、今後も工夫しながら学校の取組や児童の様子を発信していく。